

札内中学校

職業講話を取材

2月19日、札内中学校では、1年生を対象に、町内などの事業所から職員を招き、仕事の内容や社会人としてのマナーなどを話してもらった職業講話が行われました。生徒ら132人は希望する職業の講話を聞き、将来を考えました。

札内中学校では、身近な職業を知る学習を通して、地域との関わりや将来について考える職業学習を、総合的な学習の時間で行っています。

新聞社やサービス業、警察署、消防署など9業種が前後半に分かれ、講話を行いました。

十勝毎日新聞社で販売局長をしている高橋幸彦さんは「一人との関係づくりが大切。普段から好き嫌い無くいろいろな人と会話することを心掛けて」とアドバイス。生徒たちは隙かさずペンを走らせていました。

生徒たちは事前学習として、希望する職業について、図書やインターネットを活用し、質問する内容など学習を進めていました。

今後は、2年生時に町内などの事業所や店舗で、仕事を肌で感じてもらった職業体験学習を行い、3年生時には、卒業後の進路や将来

について考えさせる調査学習など予定しています。

美容師の講話に参加した土井麻琴さんは、実際に美容師が練習に使うマネキンで、髪を切る体験をしました。「初めて髪を切ったが、手元が不安定で難しかった」と感想を語っていました。

また、看護師の講話を聞いた佐々木妙夏さんは「将来、医療関係の仕事に就きたいと思っていたので貴重な話が聞けて参考になりました」と生徒を代表してお礼を述べました。



①実際に美容師が練習するマネキンを使って説明する、美容院ルッコラの門間さん②約20キロの消防士の装備(防火衣、ヘルメット、呼吸器)を体感する生徒たち③赤ちゃん用の心電図の小ささに驚く生徒たち